

「HUB-IBARAKI ART PROJECT 2021」 メインプログラム

黒田 健太 舞台作品 《今、ここで、立ち尽くすために now, here, nowhere》

9月26日(日) 13時-、16時- @茨木市福祉文化会館

発表のご案内

今年4月より、選定作家の黒田健太と6か月間のプロジェクト活動を行っている

「HUB-IBARAKI ART PROJECT 2021」は、本プロジェクトの集大成となる舞台作品《今、ここで、立ち尽くすために》の公演を、9月26日(日)に茨木市福祉文化会館で開催いたします。

つきましては、本公演の周知にご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

上演作品 | 《今、ここで、立ち尽くすために》

日時 | 2021年9月26日 (日) 13時、16時開演 (2回公演、各回30分前開場)

会場 | 茨木市福祉文化会館 [オークシアター] 5階 文化ホール

入場無料／全席自由／事前予約制

構成 | 黒田 健太

本件に関するお問い合わせ、取材依頼 |

茨木市市民文化部文化振興課 [担当：國米 (こくまい)]

567-8505 大阪府茨木市駅前3丁目8-13 茨木市役所南館8階

Tel : 072-620-1810 E-mail : bunkashinkou@city.ibaraki.lg.jp



開催概要

日時 |

2021年9月26日（日）13:00、16:00開演（2回公演、各回30分前開場）

会場 |

茨木市福祉文化会館［オークシアター］5階 文化ホール

（茨木市駅前4-7-55／JR茨木駅より徒歩8分、阪急茨木市駅より徒歩9分）

入場無料／全席自由／事前予約制

※就学前のお子様のご入場はご遠慮ください

発表内容 |

各回約1時間の舞台公演とその後30分～1時間程度のトーク

※ 舞台公演は各回同じ内容、トークは各回で内容が変わります。

鑑賞予約受付 | 茨木市公式予約フォーム

<https://logoform.jp/form/2Qoq/hub2021>

※ 新型コロナウイルス感染症の動向により、入場制限等の措置をとる可能性があります。

入場制限が生じた場合は、事前予約の方から抽選とさせていただきます。

（抽選の結果は、予約時に入力いただいたメールアドレス宛てに送付します。）

構成 | 黒田 健太（ダンサー）

出演 |

奥村 晃也（弾き語り）、黒田 健太（ダンサー）、小松 菜々子（ダンサー）、

Tsubasa Kokumai（公務員・音楽）、野口 遥香（クラリネット）、

堀野 康輔（ジャグリング）、みか（バレエ・ダンス）、

musicre（笹田 仁宣／カホン・ヴォーカル、二宮 幸子／ピアノ）

※ 9月1日現在。追加の出演者は公式サイトなどで随時発表します。

トークゲスト | 富田 大介（追手門学院大学 社会学部 教授）

主催 | 茨木市、アートを活用したまちづくり推進事業

「HUB-IBARAKI ART」実行委員会

共催 | 公益財団法人 茨木市文化振興財団

後援 | 一般社団法人 茨木市観光協会

ダンサーの黒田健太と4月からの半年間、茨木市内で様々な活動を展開してきました「HUB-IBARAKI ART PROJECT 2021」は、今年のプロジェクトの最終日となる9月26日（日）に、活動の成果として制作した舞台作品「今、ここで、立ち尽くすために」を、茨木市福祉文化会館［オークシアター］で発表します。

黒田がこの半年間茨木のストリートで偶然に出逢い、「パフォーマンスセッション」を介してコミュニケーションを深めた人々に出演を呼び掛け、出演者たちと共に作り上げる新作の舞台作品です。茨木のまちなかで繰り広げられているさまざまな表現や活動や人の営みを素材に、黒田の独自の視点と構成であらゆるパフォーマンスが盛り込まれます。普段私たちが何気なく茨木のストリートで目に触れていた光景や出来事が舞台上に現れた時、私たちの茨木のまちの視界はこれからきっと鮮やかなものになることでしょう。

1995年愛媛県生まれ。陸上競技、ボクシングと並行して、松山市のdance studio MOGAにてダンスを続ける。

京都造形芸術大学入学後に多彩な作家と交流し、舞台・映画・現代美術分野の作品制作に携わる。「Hyper performance group MuDA」にて、瀬戸内国際芸術祭をはじめとする公演へ参加する。黒田が演出を担うプロジェクト「感覚絶叫計画」にて《Reboot a stain》（2016年）、《垂るる空》（2017年）をそれぞれ発表する。2018年のアメリカ・ニューヨークへの留学を経て、現在は「HixTO」と協働した作品制作・発表を、また「現代表現活動グルーヴ」にて檜皮一彦と共に作品制作やワークショップを行う。



(Photo : Toshiro Nagai)

僕らの日常生活がある道にはあらゆるものがはみ出しています。公的なものや私的なもの、仕事や遊び、匿名の他者やあなた。

はみ出ているものたちの振る舞いがなだらかにダンスを始めたとき、それらを区別していた境界がなくなっていくます。

境界を失ったあらゆるものたちの視線がきらきらと乱反射し、ゆらめくものが僕にとってストリートと感じるものです。

これから半年間のプロジェクトでは、茨木市のストリートで出会った人と時空間を共にする”セッション”を実践し、

ストリートの臨界点に立ち尽くすことから始めます。

ストリートという環境、眼差し／眼差されるものたちの関係性は渦を巻き、お互いの存在を瞬間瞬間に翻します。

そのような領域の中で、僕はみなさんと過ごすことでささやかな実感を持ち、その経験が何なのかを考えるために今回のプロジェクトを行いたいと思います。

— 願わくばその道の先に知らないあなたと再び出会えることを。

黒田 健太

これまでのプロジェクト活動について

今年の4月上旬より活動が続けてきた今年度のプロジェクトは、黒田健太の作品《今、ここで、立ち尽くすために》を制作・発表することを軸に、大きく3つのプロセスを経て作品が完成するという計画で進めて参りました。

1. パフォーマンスセッションを通じて、市民とのコミュニケーションを創出する（4月～7月）

プロジェクトを始動してから黒田は、昼夜を問わず茨木市内の様々な場所をリサーチの名目で散策を続けました。その中で、路上や公園、広場など全ての市民に開かれたパブリックな場で、身体表現、音楽、スポーツなどプライベートな活動を行っている人々と出会い、「パフォーマンスセッション（相手の行為・表現と一緒に黒田がダンスをおこない、その様子を動画で記録する）」と題した即興的なコラボレーションを、期間中約20組の人々とおこないました。

当初は茨木のストリートでプライベートな表現活動をしている人々との接触・交流が目的でしたが、ベンチで佇んでいる人や日常の生活行為をしている人なども自然とセッションの対象に広がり、黒田の身体表現を起点に茨木市民とのコミュニケーションをいかに広げられるかにも目的が展開していきました。茨木市内の開かれた空間には、市民の豊かで自由で文化的な生活があらゆる場に息づいていることを強く実感できる機会となりました。



パフォーマンスセッションの様子（左・ダンサー、右・クラリネット奏者）

これまでのプロジェクト活動について

2. 舞台制作とそのプロセスに触れる取り組み（7月中旬～9月）

これまでにパフォーマンスセッションを行った方々一人一人に、黒田が再度コンタクトを取って舞台公演の出演を呼びかけ、約10名の方が賛同してくださりました。7月中旬から複数の市内の施設を使って、週4～5日の稽古をおこなっています。

黒田の今回の舞台作品の制作方法は、一方的に制作したものを出演者に投げかけるのではなく、稽古中出演者と幾度とセッションを試し、対話を重ねながら、身体と対話双方のコミュニケーションからシーンや構成を作っていくことに努めています。出演者の表現のジャンルが様々であるだけでなく、出会ってまもない方々と丁寧にコミュニケーションを積み重ねていくプロセスまでも、舞台作品に取り込もうとしています。

8月中旬からはこうした稽古の様子を一般公開する機会を随時設け、また広く参加者を募っておこなうワークショップも開催して、舞台作品の素材やヒントを一緒に拾い集めることもおこなっています。

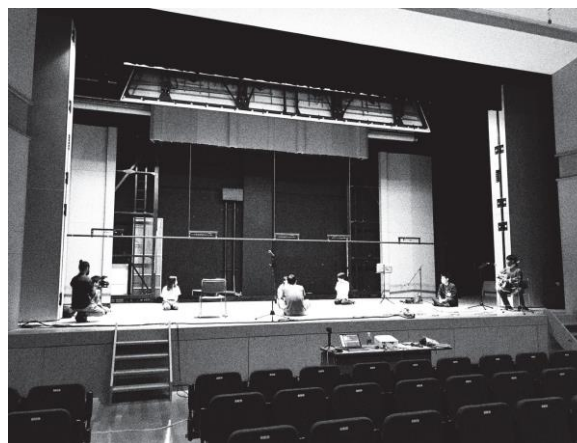


7月24日 ワークショップの様子

3. 舞台作品《今、ここで、立ち尽くすために》から伝えるもの

出演者の交渉から、脚本、演出に至るまでを黒田が手掛けるこの舞台作品は、6か月間の黒田の茨木でのあらゆる活動を素材に、1時間に凝縮して制作するものです。ダンス、演劇、音楽、映像などあらゆる舞台表現の要素を混交し、また出演者のプロ・アマの境界も取り払われ、芸術を広く柔軟な視野で捉えることが出来る作品となることでしょう。そして、ストリートにあるプライベートな表現・活動を、1日だけパブリックな舞台に引き上げるという状況の転換による価値観の揺らぎも、この作品の見どころです。

またこの作品は、黒田が茨木のストリートに「立ち尽くす」ことが起点となっています。初めて出会った人に声をかけ、その領域に足を踏み入れようとするときの緊張と戸惑いから「立ち尽くす」こと、そして自らの活動や表現をストリートで続けていくために「立ち尽くす」こと。「今、ここで、立ち尽くすために」は、「常に、茨木（すべてのまち）のストリートに、豊かな活動が繰り広げられるために」と読み替えられるのかもしれませんが。



舞台制作・稽古の様子

今年度のこれまでのプロジェクト活動 タイムライン

公募期間

2021年1月12日(火)～3月5日(金)
審査会 選定作家決定 3月15日(月)

公募期間中に4回、オンライン
公募説明会を開催。
全国より26名の応募が集まり、
5名の審査員による選考の結果、
黒田健太さんに決定。

プロジェクト実施期間／作品発表 4月5日(月)～9月26日(日)

☆ メインプログラム

黒田 健太 作品《今、ここで、立ち尽くすために》 制作・発表

☆ リサーチプロセス 4月～7月

内容 | 市内全域のリサーチ、屋外でのパフォーマンスセッションなどを不定期に実施

☆ now. here. to stay. movement research

内容 | ワークショップ、公開リハーサルなど、舞台作品の制作プロセスを体験・体感するプログラムを複数実施

7月下旬～9月中旬 随時

☆ 舞台作品上演&クロージングトーク

13時～、16時～の2回公演 参加無料・事前予約制
会場 | 茨木市福祉文化会館 [オークシアター] 5階 文化ホール

[舞台作品制作・稽古期間]
7月上旬～9月下旬

9月26日
(日)

◎ 関連プログラム

◎ バトンタッチトーク 永井寿郎×黒田健太

日時 | 6月20日(日) 無観客開催
会場 | 茨木市役所合同庁舎7階 プラネタリウム
ゲスト | 永井寿郎(写真家、HIAP2020選定作家)

◎ 茨木芸術座談会2021

日時 | 7月31日(土) 15時30分～18時
会場 | 茨木市男女共生センターローズWAM 4階セミナー室